



CHAPTER 51

クライアント識別コードと強制承認コードの一括処理

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントリングを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントリングと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

クライアント識別コード機能を有効にすると、コールが特定のクライアントに関連していることを示すコードをユーザが入力する必要があります。コール アカウントリングと課金の目的で、顧客、学生などのユーザにクライアント識別コードを割り当てることができます。強制承認コード機能を有効にすると、ユーザがコールを確立する前に有効な承認コードを入力する必要があります。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルート パターンを変更し、ダイヤルブランドキュメントを更新して各ルート パターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映させる必要があります。

この章は、次の項で構成されています。

- 「CMC および FAC の設定チェックリスト」(P.51-2)
- 「BAT の重要な考慮事項」(P.51-2)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」(P.51-3)
- 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」(P.51-4)
- 「既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集」(P.51-4)
- 「コードの設定の削除」(P.52-1)
- 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」(P.51-5)
- 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」(P.51-6)

CMC および FAC の設定チェックリスト

表 51-1 は、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して CMC と FAC を実装する手順を示しています。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.51-7) を参照してください。

表 51-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順とトピック	
ステップ 1	BAT に関する重要情報、および CMC 機能と FAC 機能の概要を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> 「BAT の重要な考慮事項」(P.51-2) 『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』
ステップ 2	CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC と FAC の設定情報を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」(P.51-3) 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」(P.51-4) 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」(P.51-5)
ステップ 3	Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するために CSV ファイルを BAT に挿入します。	<ul style="list-style-type: none"> 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」(P.51-6) 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」(P.51-7)
ステップ 4	Cisco Unified Communications Manager の管理ページでルート パターンを追加または更新して、FAC または CMC を有効にします。	<ul style="list-style-type: none"> 『<i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド</i>』 『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』
ステップ 5	ダイヤル プラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイヤル プラン ドキュメントとともに保管します。	ダイヤル プラン ドキュメントを参照
ステップ 6	ユーザに対して、コードなどの必要な情報をすべて提供し、機能の内容を説明します。	『 <i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i> 』

BAT の重要な考慮事項

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認します。

- CMC と FAC で別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルにこの 2 つの機能を混在させないでください。
- CMC または FAC の設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- CMC または FAC の設定を更新、削除、または追加する (初めての追加ではない) 場合は、既存の CSV ファイルを編集するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。

- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のコード（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各コード（およびそれに対応する設定値）に 1 行を指定します。たとえば、強制承認コード用のコードを入力する場合は、次の形式になります。
(承認コード, 承認コード名, 承認レベル)
1234,John Smith,20
1235,Lisa Mendez,10
5551,Debbie Dunn,30
- ファイルから情報を削除して空白にしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- 該当する CSV ファイルを、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードしたことを確認します。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.51-6) で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用して CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノード上にありますが、通常、このサーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、最初のノードからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンについては、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
- ステップ 3** Microsoft Excel で **BAT.xlt** を開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] をクリックします。



ヒント 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

- ステップ 4** 次のタブのいずれかをクリックします。
 - [Insert CMC] : CMC 用の CSV ファイルを作成する場合
 - [Insert FAC] : FAC 用の CSV ファイルを作成する場合
- ステップ 5** [表 51-2](#) に従って、各カラムに CMC または FAC の設定値を入力します。
- ステップ 6** 「[ステップ 5](#)」を繰り返し、すべてのコードを入力します。
- ステップ 7** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、[Export to BAT Format] をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\%xlsDatafiles に保存されます。別のロケーションを選択するには、[Browse] をクリックします。

- ステップ 8** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 9** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.51-6) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-7) を参照してください。

テキストエディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、「[クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成](#)」(P.A-20) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-7) を参照してください。

既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、メモ帳で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、またはメモ帳で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 以前にコードを挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 2** メモ帳で既存の CSV ファイルを開いて編集します。表 51-2 のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コードの追加、または既存の設定の更新を行います。
- CMC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は Client Matter Code (必須)、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。
- FAC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。

**注意**

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な強制承認コードやクライアント識別コードなどは必ず含めなければなりません。情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.51-6) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-7) を参照してください。

CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値

次の各項と表 51-2 を併せて参照してください。

- 「[BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成](#)」(P.51-3)
- 「[テキストエディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データファイルの作成](#)」(P.51-4)
- 「[既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集](#)」(P.51-4)
- 「[コードの設定の削除](#)」(P.52-1)

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.51-7) を参照してください。

表 51-2 CMC および FAC の設定値

設定/カラム	説明
CMC 用 CSV ファイル	
[Client Matter Code]	ユーザがコールを発信するときに入力する 16 桁以内の固有のコードを入力します。クライアント識別コードは、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
[Description]	このオプションのフィールドは、クライアントコードとクライアントの関連付けに役立ちます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
FAC 用 CSV ファイル	
[Forced Authorization Code]	16 桁以内の固有の承認コードを入力します。ユーザは FAC 対応のルートパターンでコールを発信するときこのコードを入力します。

表 51-2 CMC および FAC の設定値

設定/カラム	説明
[Authorization Code Name]	50 文字以内の固有の名前を入力します。この承認コード名は、承認コードを特定のユーザまたはユーザのグループに結び付けます。この名前は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。 ヒント システム内のすべてのユーザに承認コードを割り当てる場合は、コード名にユーザの識別情報を含めるようにしてください。この識別情報には、ユーザ名やその他の機密性のない固有の識別情報（たとえば、電子メールのエイリアス、社員番号、学生番号）などを使用してください。承認コード名は CDR に書き込まれ、安全でないため、社会保障番号などの識別情報は使用しないでください。
[Authorization Level]	0 ~ 255 の範囲内の 3 桁の承認レベルを入力します（デフォルトは 0）。承認コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルートパターンでコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザの承認レベルがそのコールのルートパターンに指定された承認レベル以上である必要があります。

BAT を使用した CUCM データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT に CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

手順

- ステップ 1** CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。
- CMC の場合：[一括管理 (Bulk Administration)] > [CMC] > [CMC の挿入 (Insert Client Matter Codes)]
 - FAC の場合：[一括管理 (Bulk Administration)] > [FAC] > [FAC の挿入 (Insert Forced Authorization Codes)]
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスで、更新されたコードが含まれる CSV ファイルを選択します。



ヒント 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。

- ステップ 3** 既存のコードのリストを更新する場合は、表 51-3 で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でレポートを生成します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、FAC と CMC を挿入するジョブを作成します。
ジョブの詳細については、第 79 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.80-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.51-7) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

「BAT を使用した CUCM データベースの更新」(P.51-6) と表 51-3 を併せて参照してください。関連する手順については、「関連項目」(P.51-7) を参照してください。

表 51-3 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
[ファイル名 (File Name)]	ドロップダウン リスト ボックスから、挿入する CMC ファイルまたは FAC ファイルを選択します。
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。 このチェックボックスをオンにすると、既存の承認コード名 (FAC)、承認レベル (FAC)、または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の承認コードとクライアント識別コードは変更されません)。このチェックボックスをオンにしないと、該当の承認コードまたはクライアント識別コードがすでに存在することを示すエラーがログ ファイルに書き込まれ、更新は行われません。

関連項目

- 「CMC および FAC の設定チェックリスト」(P.51-2)
- 「BAT の重要な考慮事項」(P.51-2)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」(P.51-3)
- 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」(P.51-4)

- 「既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集」(P.51-4)
- 「コードの設定の削除」(P.52-1)
- 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」(P.51-5)
- 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」(P.51-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」(P.51-7)
- 「クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」(P.A-20)